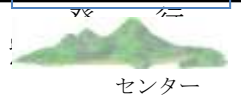


第7回 鷺浦コミセン作品展

3月14日(土)・15日(日)



鷺浦コミュニティセンターだより
双鷺洲



センター
電話/ FAX: 0848-87-5004
Eメール: sagiurac@mail.mcat.ne.jp

作品展に出品された方、そして、ご来館くださいました町内の皆様ありがとうございました。また準備いただいた運営委員、関係者の皆様に感謝いたします。

5月から主催講座が始まります

絵画 (絵手紙)

日時: 第3金曜日 9:30~11:30
講師: 村尾 正顕さん
受講料: 1,500円/年
持参物: 絵画道具

健康体操

日時: 第1.3火曜日 9:30~11:30
講師: 宮地紀恵子さん
受講料: 3,000円/年
持参物: 動きやすい服装・上靴・飲み物・タオル

鷺浦町内会よりお知らせ
島内バス運行にともないバスの名称を募集します、募集されます方は、4月15日(水)までに応募して下さい。応募先 鷺浦コミセン

鷺浦幼稚園卒園式



3月13日(金)
鷺浦幼稚園の第19回卒園式が行われました。卒園おめでとうございます。

鷺浦小学校卒業証書授与式



3月20日(金)
鷺浦小学校の第20回卒業証書授与式が行われました。卒業おめでとうございます。

新年度がはじまりました。
新たな事に挑戦してみませんか。
新規に申込まれる方は4月14日(火)までに鷺浦コミセンまで連絡下さい。

みなと茶屋3月29日(日)オープン
皆様のご利用をスタッフ一同お待ちしております。

4月町内行事予定

- 4日(土) さぎしま さくらウォークと大平山登山
- 7日(火) 鷺浦小学校入学式
- 11日(土) チュリップ祭
- 12日(日) 第5北川丸慰霊祭

俳句・短歌

- ・春風に小鳥も入学待つている
 - ・春おぼろ瀬戸の島じまかすみたれ
 - ・激流の岩肌匂うワカメの香
 - ・春彼岸母を偲んで五十日祭
 - ・春やむかし豊作祈願の菩薩あり
 - ・谷渡る春告鳥や経を読む
 - ・寒も去り春の訪れ身に感ず
 - ・鷺初音姿は見えず
 - ・空家増し一人住いも軒並で
 - ・姿見かけず安否気遣う
- あかんたれ
ぶんか
一草
牡丹

2月に県立広島大学でシンポジウムが行われた佐木島の海浜セラピー、その考案と指導に尽力され、この度、同大理学療法学科教授を定年退職された、大塚彰先生から海浜セラピーと今後について寄稿いただきましたので、感謝とともに掲載いたします。



大塚 彰先生

シンポジウムに手応え

佐木島での海浜セラピーは、平成25年度の県立広島大学重点研究の課題研究と平成26年度の同研究の学長プロジェクトの支援を受けて研究させて頂いたものです。今回のシンポジウムはそれらの成果発表として開催しました。シンポジウムを計画から実施の当日まで、集客でき

特別寄稿

海浜セラピー成功には皆さんの力が

るかどうが大変心配しましたが、120人もの方にご参加いただき、大きな手ごたえを感じました。平成27年度も継続して海浜セラピーの検証と実践を展開していけると感じました。

授産機構としての確立を

平成27年度も継続して展開していきます。大学サイドからの展望としては、海浜セラピーを大学と佐木島ボランティアガイドの授産機構として確立したいと考えています。名称の使用と海浜セラピー基地の認定やセラピストの認定に関する仕組みを今後の課題としていきます。

ただ、現在は佐木島での「海浜セラピー」の安定した実施と成功が大前提です。そのためには、佐木島の住民の皆さんの支援が必要です。海浜セラピーと名称が市民権を得ることに一緒に応援して頂きたいと考えています。

恋人の聖地づくりも

一生懸命やられるボランティア

クラブで準備体操はいかが？

日本グラウンド・ゴルフ協会

準備運動して怪我のないプレイをと、日本グラウンド・ゴルフ協会では、プレイ前の「クラブで体操」を呼びかけています。クラブを両手で持って、左右に振ったり、腰や体の側面をストレッチするなど9種類の動きからなるこの体操、「音楽なしに手軽にできる」と同協会では話しています。

同協会ではパンフレットも用意。ご希望の方は、この面のご意見ご感想を添えて、4月30日までに下記の連絡先にお名前、ご住所、必要部数を教えてください。お送りします。

佐木島での健康と観光の仕事、継続したい

イアの皆さんと連携には苦労は全く感じていません。ただ、私たちの方が宮仕えですの、時間の制約があり迷惑をお掛けしたと思っています。

退職後も佐木島での健康と観光の仕事は継続してさせて頂ければ幸いです。トライアスロンのボランティア参加も継続して行います。そして、大会後の表彰式の壇上に監督として上がれる選手やチームを目指したいと狙っています。

海浜セラピーや健康づくりを今後、理学療法学科の金井教授と梅井助教と一緒に佐木島での展開を計画しています。

心残りは、佐木島に「恋人の聖地」を創造できなかったことです。

宮本常一と佐木島



(3)父からの教え

何気ない風景の中に、それを生み出した人の手を見出した宮本常一の視線は、どのように出来たのでしょうか？

日本中を旅し、離島を見つめ続けた宮本常一は、大正十一年、十五歳で故郷の山口・周防大島を離れ、大阪に働きに出ることになります。その旅立ちの日に、宮本常一の父・善十郎は「これだけは忘れぬように」と十か条からなるメモを取らせました。

1 汽車へ乗ったら窓から外をよく見よ。

から始まる、この十か条、すべては掲載できませんが、宮本常一を宮本常一たらしめたものとして、取り上げてみましょう。

2 村でも町でも新しくたずねていったところはかならず高いところへ上つてみよ、そして方向を知り、目立つものを見よ。(中略)そして山の上で目をひいたものがあつたら、そこへはかならずいつて見るのだ。高いところをよく見ておいたら道にまようようなことはほとんどない。

このように初めての土地での身の施し方を父は語ります。続いて名物料理を食べること、できるだけ歩くこと、を勧めます。

6 私はおまえを思うように勉強させてやるのができない。だからおまえには何も注文しない。(中略)しかし三十すぎたら親のあることを思い出せ。

病気になると思ったら戻ってこいとも伝えますが、次が示唆深い。

8 これからさきは子どもが親に孝行する時代ではない。親が子に孝行する時代だ。そうしないと世の中はよくならぬ。

そして最後に、こう記させます。

10 人の見のこしたものを見るようにせよ。その中にいつも大事なことがあるはずだ。あせることはない。自分の選んだ道をしつかり歩いていくことだ。

この「見のこしたもの」への視線が宮本常一の生き方を決定づけたのではないのでしょうか？(つづく)